癌の臨床 **17**: 437, 1971, **18**: 517, 1972, Radiology **106**: 123, 1973, **113**: 681, 1974, Amer. J. Roentgenol. **125**: 965, 1975など)解釈できることを発表した.

22. ^{99m}Tc-bleomycin (kit 調製) および ^{111}In-bleomycin の腫瘍集積性

伊藤 安彦　市川 恒次
村中 明　横林 常夫
(川崎医大・核)
今城 吉成
(同・放治)

CEA 社により kit 化された ^{99m}Tc-bleomycin (Tc-BLM) と RCC 社の ^{111}In-bleomycin (In-BLM) について基礎的・臨床的検討を行ない次の成績を得た.

1. Tc-BLM の標識率は十分でなくまた調製後の時間の経過とともに free TcO_4^-が多くなった. 臨床的に明瞭な腫瘍像を描画できなかった.

2. In-BLM は V2 胆癌家兎において良好な腫瘍親和性を示した. 腫瘍対組織比は投与2日後の方が大であった. しかし, その比はいずれも $^{111}InCl_3$ と同程度かまたは後者の方が大であった. また, ^{67}Ga との同時投与群では, 比は ^{67}Ga の方が大であった.

3. 臨床例において肺癌では ^{67}Ga の方が In-BLM よりやや良好であった.

23. 各種癌患者における CEA 値について

佐々木正博　勝田 静知
(広島大・放)
三島 康弘　福原 典昭
秋山 実利　西本 幸男
(同・2内)
川上 広育
(同・1内)

1965年 Gold 及び Freedmam らによって報告された CEA (carcinoembryonic antigen) は現在, Zirconyl Phosphate gel 法 (Hansen 法), Farr 法, 二抗体法などで測定されている. またその臨床的意義については, 主として欧米において多くの研究報告がなされている.

私どもは, 最近 Roche Kit を用い悪性腫瘍患者の血漿 CEA 値を測する機会を得たので検討を加えた. 正常者, 喫煙者及び悪性腫瘍患者の血漿 CEA 値は, 諸家の報告とよく一致し, 肺癌については, 病期の進行とともに血漿 CEA 値の上昇が認められ, 扁平上皮癌より腺癌に CEA 値が高値を示す傾向にあった.

24. CEA リアキット (ダイナボット) による血清 CEA 測定成績

湯村 正仁　折田 薫三
(岡山大・1外)
湯本 泰弘　三谷 健
(同・1内)

ダイナボットの CEA リアキットが試作され使用する機会を得たので, その成績を報告する. 対象は消化器系良・悪性疾患 54 例, 肝癌・肝炎・肝硬変 80 例である. CEA 陽性率 (2.5 ng/m*l* 以上を陽性) は胃癌 28.5%, 大・直腸癌 36.8%, 肝癌 20.0%, 肝炎・肝硬変 25.0% であった. 胃癌・大腸直腸癌の陽性例は Stage III, IV である. 肝細胞癌の CEA 陽性例は血清 α-feto が 300 ng/m*l* 以下であり ^{67}Ga-citrate の取込みが良好で Edmondson

Presented by Medical*Online